

上智大学グリーンケア研究所・宗教者災害支援連絡会共催
宗教者災害支援連絡会 7周年シンポジウム

熊本地震と宗教者－ それぞれのむき合い方

－プログラム－

パネルディスカッション「熊本地震と宗教者－それぞれのむき合い方」

報告者：

糸山公照（真宗大谷派熊本教区光照寺副住職）

「宗教者と社会福祉協議会と市民の連携～熊本県宇城市の事例～」

矢野道代（金光教木山教会在籍教師）

「被災した教会の楽しい隠れ家カフェ～ようこそ第2キッチンへ～」

カ久道臣（善隣教教主）

「諸宗教連携による震災対応～新宗連とWCRPの連携ボランティア“VOWS”の
取り組みから見えてきたこと～」

立野泰博（日本福音ルーテル大江教会牧師・九州臨床宗教師会スーパーバイザー）

「平時が非常時の鏡～現場の苦悩に寄り添う宗教者・被災者として～」

コーディネーター：

稲場圭信（宗教者災害支援連絡会世話人、大阪大学大学院人間科学研究科教授）

開会挨拶：島園進（上智大学グリーンケア研究所所長・宗教者災害支援連絡会代表）

閉会挨拶：宍野史生（宗教者災害支援連絡会世話人、神道扶桑教管長）

お問い合わせ先：

info@syuenren.opensnp.jp

下記QRからホームページを閲覧できます



【主催】上智大学グリーンケア研究所、宗教者災害支援連絡会

【日時】2018（平成30）年5月2日（水）14:00～17:00

【場所】上智大学四谷キャンパス 図書館9階L-921

東京都千代田区紀尾井町7-1

（JR中央線、東京メトロ丸の内線「四ツ谷駅」徒歩1分）

宗教者災害支援連絡会 7周年シンポジウム 「熊本地震と宗教者－それぞれのむき合い方」

2016年4月に発生した熊本地震から2年が経ちました。被災地では建物、道路、住居などの復旧が徐々に進みつつありますが、震災からの復興は依然として厳しい状況が続いています。今も多くの被災者は不安、不眠、食欲不振などの災害のストレスを抱えています。長引く避難生活によって震災関連死は200名を超え、その内17名は自ら命を絶しました。熊本地震は未だに継続していると言えましょう。

しかし、厳しい現状に対して、熊本地震への全国的な風化が進み、被災者への支援団体やボランティアの数は減少の一途を辿っており、支援体制の弱体化が懸念されています。

このような状況の中で、宗教者、宗教団体、諸宗教の連合体は様々な震災対応に取り組んでいます。傾聴活動、災害ボランティア、地域包括ケア、そして自ら被災しながらも周囲を癒し、励ます行動など宗教が持つ特徴を活かし、地道な取り組みが展開されています。

この度のシンポジウムでは、熊本地震への関心が薄れる中、改めて熊本地震の被害を直視し、今、必要な活動と宗教者が果たすべき役割、さらには、将来の災害への備えについて学び合いたいと思います。

【報告者プロフィール】

糸山公照（真宗大谷派熊本教区光照寺副住職）

熊本県宇城市生まれ。大谷大学大学院文学研究科修士課程修了。大谷高校から熊本県立高校、特別支援学校等の非常勤講師を務める。臨床宗教師、学校心理士、防災士の資格を有する。地震発生後「FSC復興支援センター」を立ち上げ避難所や福祉施設、被災者の自宅を訪ね、炊き出しや支援物資の運送、心のケアなどを行う。また地域に密着した防災意識の啓発なども実施。

矢野道代（金光教木山教会在籍教師）

大学卒業後、立教英国学院勤務。帰国後に金光教教師拝命。金光教木山教会在籍教師となる。結婚・出産を機に育児に専念。2児の母。元清和国際高等学園教師。最も被害が多かったと言われる益城町に位置する教会で被災し、被災者でありながら、ボランティアの受け入れや地域への支援活動を行っている。現在も避難生活をおくる。

力久道臣（善隣教教主）

1994年には善隣教継主に就任。2001年、新日本宗教団体連合会（新宗連）青年会委員長に就任。2010年、善隣教教主、新宗連理事に就任。2014年から新宗連九州総支部会長を務める。新宗連とともに世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会熊本震災復興タスクフォースメンバーとして熊本地震に対する諸宗教の連携した支援活動に従事した。

立野泰博（日本福音ルーテル大江教会牧師・九州臨床宗教師会スーパーバイザー）

熊本県南阿蘇村立野生まれ。日本ルーテル神学校卒業。日本福音ルーテル教会事務局長を経て、日本福音ルーテル大江教会牧師。2011年3月18日より宮城県にてルーテル教会救援派遣牧師に従事。臨床宗教師、スピリチュアルケア指導資格を有する。東日本大震災救援活動をまとめ、キリスト新聞社より「被災地に立つ寄り添いびと」2014を出版。

【コーディネーター・プロフィール】

稲場圭信（大阪大学大学院人間科学研究科教授）

東京大学文学部卒、ロンドン大学大学院博士課程卒、2000年博士号取得（宗教社会学）。2010年4月に大阪大学准教授、2016年4月より現職。研究テーマは、宗教の社会貢献、利他主義、宗教との防災・災害時連携。著書に『災害支援ハンドブック』、『利他主義と宗教』、『震災復興と宗教』など。宗教者災害支援連絡会世話人、専門社会調査士、専門宗教文化士、防災士。